2024年5月号
Vol.112
（2024年5月5日発行）

ICTニュース

大阪府済生会中津病院　感染対策チーム

流行はいつも中国から･･･　～次は百日咳？～

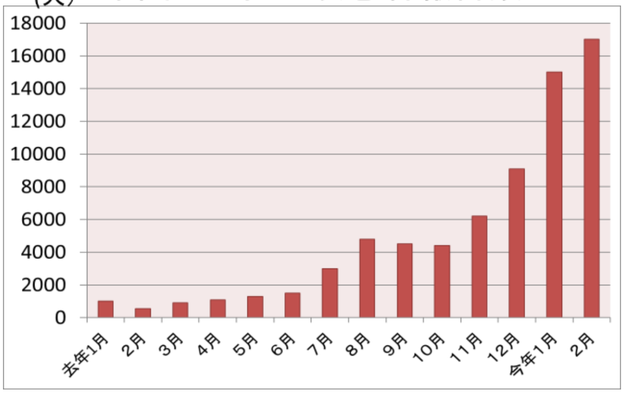
2019年に中国に端を発したCOVID-19によるパンデミックは、ようやく一段落したと思われ、コロナ後の日常生活が定着しようとしています。しかし今、百日咳が中国で大流行の兆しをみせ、懸念が高まっているのをご存知でしょうか。

中国の国家疾病予防管理局によると、今年1月～2月の百日咳の感染者数は、2023年の同時期が1421人だったのに比べて大幅増の3万2380人で、これは昨年1年間の感染者数に匹敵する数字とのことです。すでに13人の死亡も報告されています。

中国では日本同様、百日咳のワクチンは無料で、通常は乳児に対し、ジフテリアと破傷風にも有効な三種混合ワクチン（DPT）を接種しているのですが、患者数の増加が止まりません。

一般的に百日咳は飛沫を介して感染しますが、最初は風邪に似た症状があらわれ、少しずつせきの回数が増加し、呼吸困難をきたす場合もあります。乳児の場合、息を吸う時にヒューという音が出ることもあります。また重度の咳発作とそれに起因する低酸素状態により、脳、眼、皮膚、粘膜への出血をきたしたり、痙攣などを起こすこともあります。

中国での百日咳患者報告数



国家予防疾病管理局発表データより作成

今回の大流行の理由として、ワクチン接種後の抗体の低下等により成人・高齢者が発症し、百日咳と診断できない間に気づかぬうちに百日咳菌を運び、感染を広めていること等が挙げられていますが、北京日報によると、百日咳菌の遺伝的変化により、体内の免疫システムをすり抜け、免疫を持った人でも発症するケースも確認されているとのことです。これらの報告をうけ、中国疾病予防管理センターの沈洪兵所長は3月、百日咳のワクチンを改良するか、予防接種プログラムを調整するかを決定することが必要だと指摘し、危機感をあらわにしています。

さらに、百日咳の流行は中国以外でも報告されており、ストックホルムにある欧州疾病予防管理センターによると、欧州の一部の国では2023年後半から感染者数が増加し、チェコでは1963年以来最大の流行に見舞われ、同国およびオランダで百日咳による複数の死亡例が報告されているようです。

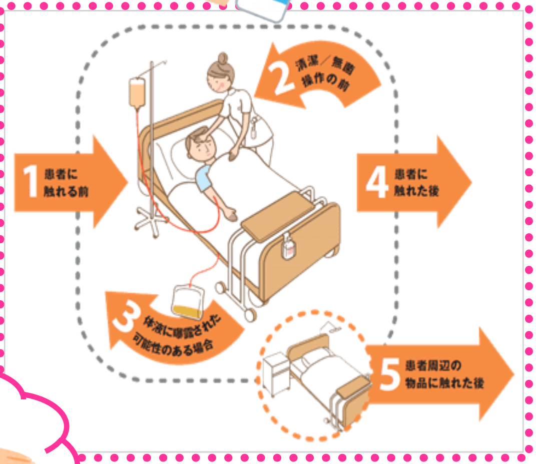
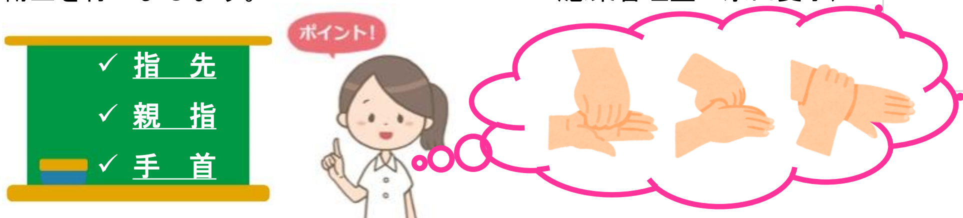
2023年の年末には中国でマイコプラズマの大きな流行が報告されましたが、この百日咳の大流行からも目が離せません。**ゴールデン・ウイークに中国に旅行される人はご注意を！**

（腎臓内科　田中敬雄）

5月5日　WHO世界手指衛生の日

WHO（世界保健機関）では、5月5日を世界手指衛生の日として『感染対策の基本である手指衛生』を呼びかけをしています。手指衛生はわずかな時間で実施でき、医療関連感染を防止につながります。

WHOは2009年に『医療における手指衛生ガイドライン』の中で、手指衛生の5つのタイミングを提唱しています。アルコール消毒液による手指衛生は、手洗い場がない時でも実施することができます。当院で採用しているアルコール消毒液には、携帯用のラビジェルと、設置用のウェルフォームがあります。ラビジェルは手のひらに500円玉大（1ml）、ウェルフォームは1プッシュを手に取り、しっかりすり込んでください。医療従事者の手が感染経路にならないために、正確なタイミングで手指衛生を行いましょう。　（感染管理室　永田夏子）



手指衛生の5つのタイミング
（WHO 2009年）